

2016年度 マイクロソフト情報学研究賞紹介



選定にあたって 東野輝夫

マイクロソフト情報学研究賞選定委員会委員長／
大阪大学大学院情報科学研究科

2017年3月16日から18日に名古屋大学東山キャンパスで開催された本会第79回全国大会において、2016年度の「マイクロソフト情報学研究賞」が五十嵐悠紀君（明治大学）と岡崎直観君（東北大学）に授与されました。第20代会長の長尾真先生（京都大学名誉教授）からご寄贈いただいた資金により、本会は情報処理の研究・開発に携わる優秀な若手研究者を顕彰する「長尾真記念特別賞」を2005年度に創設して、2015年度までの11年間、若手研究者を顕彰してきました。2016年度に日本マイクロソフト(株)のご協力により、同賞の主旨を引き継いだ「マイクロソフト情報学研究賞」を創設しました。

本賞は、情報学の主要な分野の研究・開発で国際的に顕著な貢献が認められ、今後もその発展が期待される若手研究者を毎年2名以内で顕彰するものです。受賞対象者は、博士号取得後10年以内の若手研究者で、公募推薦の時期に本学会正会員として3年以上経過した国内の大学または公的研究機関に所属する者としています。2016年度は10名の推薦があり、表彰規程ならびに選定手続きに基づき慎重に審議を行った結果、以下の研究業績に関して上記2名の受賞が決定しました。

・五十嵐悠紀君：「手芸のための対話的な形状デザイン手法」

五十嵐君は、コンピュータグラフィクス(CG)の研究を行い、初心者でも容易に設計可能な「ぬいぐるみデザインシステム」を開発しました。提案システムでは、手書きスケッチを利用したモデリング操作で、ユーザが希望するぬいぐるみの形状を対話的にデザインし、ユーザが入力した輪郭線と物理的制

約を元にシステムが3次元のぬいぐるみモデルを自動生成します。また、ビーズ作品のデザイン支援システムや、カバーデザイン・ステンシルなどの手芸を対象としたさまざまな支援システムを開発し、一般の人もCGを使ってプロのクリエイターや技術者に近い手芸作品を作成できるような技術を考案しました。

・岡崎直観君：「言語データの意味的解析による知識獲得と社会観測に関する研究」

岡崎君は、コンピュータによる大量の言語データの意味解析と知識獲得の研究を行うとともに、人間に役立つ情報の獲得に関する研究を行ってきました。Webなどに書かれたさまざまな文章に対して、曖昧性(同じ表現が異なる実体・概念を指す現象)や多様性(同じ実体・概念が異なる表現で言及される現象)の問題に焦点をあて、用語の意味目録を自動的に獲得する手法や、用語の曖昧性解消・柔軟なマッチングの手法の研究に取り組みました。さらに、ソーシャルメディア上の投稿から社会や世論の動向を「観測」する研究を進め、震災当時に流通した誤情報の拡散収束過程などを明らかにしてきました。

両名ともにマイクロソフト情報学研究賞の受賞者に相応しい優れた研究業績があり、国際的な活躍と発展が大きく期待される若手研究者である。両名の今後のさらなる活躍を期待したいと思います。

新たに創設された「マイクロソフト情報学研究賞」を通して、これからも情報学分野で国際的に活躍する優秀な若手研究者を顕彰していきたいと考えています。

(2017年5月28日)